

土田のぶよし 通信

発行 土田のぶよし
携帯 090-2834-8861
Mail nobu+2001@yahoo.co.jp



北陸新幹線延伸 北日野小児童がダンスで歓迎

2024年3月16日、ついに北陸新幹線が福井・敦賀までつながりました。越前市では、新駅「越前たけふ駅」に隣接する「道の駅越前たけふ」にて、たくさんの来場者の中、歓迎セレモニーが行われました。地元北日野小学校の子供たちなど25名による「ウェルカムダンス」も花を添えました。

ここ越前には本物の宝物がたくさんあります。越前カニ・越前打ち刃物・越前和紙・越前指物・越前陶芸・越前漆器。先端産業も集積しています。コウノトリも住んでいます。人も、生き物も住みよい街です。この新幹線効果で、越前の良さを全国に知っていただきたい、来ていただきたい、楽しんでいただきたいと思います。



戦国武将 朝倉氏も 「源氏物語」を味わい楽しむ 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館

「武力」により越前国の戦国大名となった朝倉氏。朝倉氏遺跡博物館では、「源氏物語」をめぐる朝倉氏の文化交流にスポットをあて、特別展を開催(4月14日まで)。ここにも、本物の宝物がありました。

平安時代中期に書かれた「源氏物語」は、既に古典にもかかわらず、朝倉家臣は、「源氏物語」を、深い知識、教養により理解し、楽しんでいたので。さらに、紫式部が生涯唯一地方で暮らした土地が越前であることを、彼らは誇りにしていました。その痕跡が資料を通じて展示されています。

府中奉行所(武生)との関係も興味深い展示です。

豊かな暮らしには、「文化の力」が大きいと感じました。

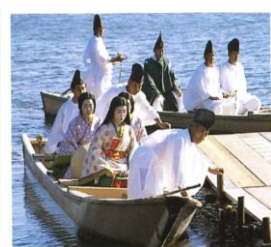
大河放送を契機に越前の国へ下向の旅再現

越前の国の国主となった父為時とともに、都から越前の国へ赴いた紫式部の旅が再現されます。楽しみです。

(10月18日～10月20日)



「大河ドラマ館」 光る君へ



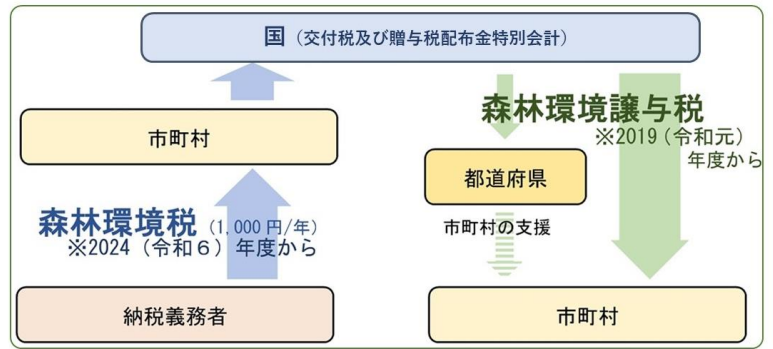
紫式部の越前の国への旅を再現

森林環境税

令和6年度から
国民一人当たり 1000円



令和6年度から森林環境税が課税されます。この税は、国税で、1人年額1,000円が徴収されます。個人住民税均等割と併せて市に納付します。



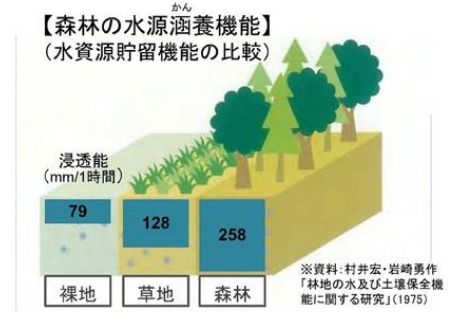
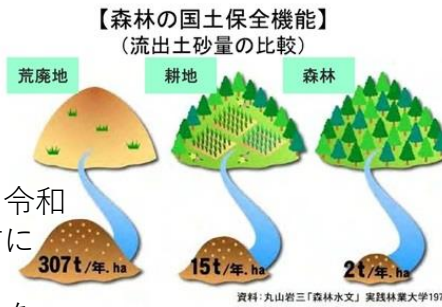
山・森を守ろう

市に交付金
森林環境譲与税



国は、森林環境税の課税に先駆け、令和元年度から森林環境贈与税として市町に交付しています。国は、森林がもっている働きを見直し、保全できる仕組みを作ったのです。

しかし、越前市では、この財源をもとにした山林の保全が、十分にはできてきませんでした。課題がたくさんあり、どこからどのように取り組めばよいのかわからなかったのでしょうか。使われなかったこの財源は、基金に積み立てていました。



手入れされた山林



手入れ不足の山林

マスタープラン完成
市民の保全活動支援
芦山公園をモデルに



私の議員最初の一般質問は、「豪雨への対応」と「山林の手入れ」についてです。令和4年9月議会でした。「里山のもつ治水力を回復すべく里山の整備が必要」「山が荒れている。もはや山林所有者や、林業従事者だけの問題ではない」とたどしました。



放置された山林



山林からの土石流（村国山）

令和6年3月、荒れた里山を整備していく計画(森林・林業マスタープラン)が完成しました。市民の里山の保全活動も支援されます。市中央の芦山公園を里山モデルとし、整備されます。ありがたいです。

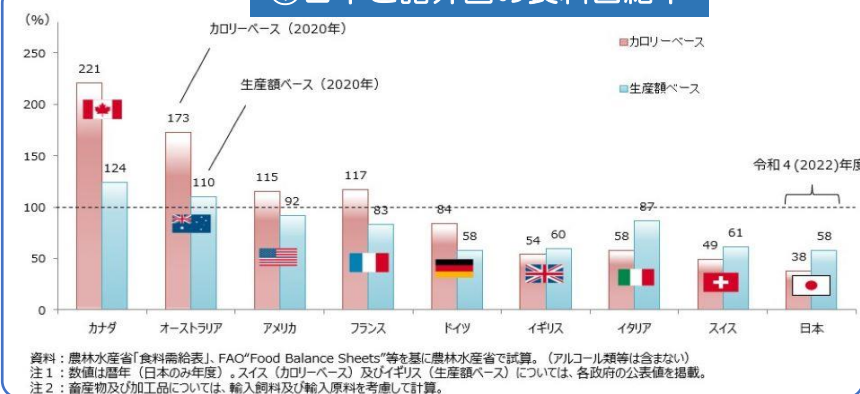


適切な間伐は森を健全に保ちます。間伐材を家具や燃料に利用することは、間伐を促進し森林の多面的機能の発揮に貢献します。



食の安全・食の「量」「質」は大丈夫？ 食糧難・飢餓 !!

①日本と諸外国の食料自給率



私たちの食卓から食べ物がなくなってしまうのではないかと心配は大きく次の4つからです。

- 1 ロシアのウクライナ侵攻
- 2 世界的な異常気象
- 3 中国の食料の爆買
- 4 世界人口の増加

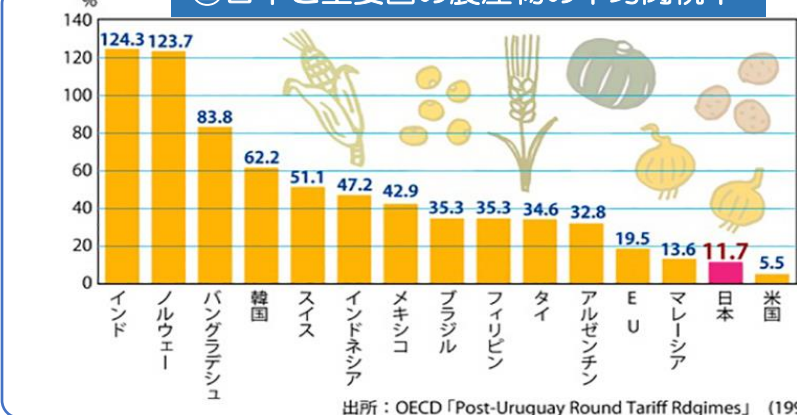
この食糧難・飢餓を避けるため、日本農業にとって重要な法律が改正される見通しです。重要な法律とは「食料・農業・農村基本法」です。

法改正のポイントは、「不測」の事態時の生産体制の強化と、国産資材の確保です。

グラフ①は、諸外国の食料自給率です。

日本の食料自給率は、カロリーベースで38%です。先進国の中で、日本は群を抜いて低いことがわかります。越前市の食料自給率は、試算で、50%台です。これでは、本市でも食の量の確保ができていないといえます。

②日本と主要国の農産物の平均関税率



知っていますか？ 除草剤有効成分が残った 遺伝子組換え作物

「食の質」です。劣化しています。
「量」が確保できないのに、「質」について選べません。例えば大豆を例にとると、日本が食料を大量に輸入しているアメリカでは、収穫前に、除草剤のグリホサートを散布しています。グリホサートは、有効成分名で、商品名で有名なのが、ラウンドアップです。越前市のホームセンターでも、普通に販売されています。しかし、本市では、作物には散布しません。作物が枯れてしまうからです。アメリカでは、除草剤をまいても枯れない遺伝子を組み換えされた大豆の種をまき、収穫前に一斉にラウンドアップを散布し、雑草を枯らし、収穫しやすくしているのです。大豆の実の習熟度も増すそうです。収穫前に除草剤を散布すると、除草剤の有効成分が大豆に残ってしまいます。



除草剤ラウンドアップ

この大豆を食しても大丈夫なのでしょう。

2015年、国際がん研究機関は、グリホサートを「人に対して発がん性がある」項に分類しました。2018年、グリホサートをめぐる裁判が、カリフォルニア州で起こりました。裁判所は発がん性を認め、販売する多国籍企業に、320億円の損害賠償を命じました。

多くの国で、消費者の懸念が高まり規制が強化されました。日本ではどうでしょう。厚生省は、逆に、グリホサートの残留基準値を大幅に緩和しました。世界の動きに逆行です。量の確保のためには、質を選べないのでしょうか。

かつては、日本の農業は「手厚い保護」の中と、言われてきましたが、今日では、全く違います。諸外国のそれぞれの国の保護(グラフ②参照)と助成をうけ、安価で生産できる農産物に圧倒され、厳しい状況の中、何とか生産できているのが現状です。地域農業を支援し、食の「量」と「質」を守る取り組みは大切です。土田のぶよしは、今後も地域農業を大切に守り支援します。



越前国府跡地の特定 式部が暮らした場所の発掘調査

市は、令和5年度から5か年計画で、越前国府の所在地解明に向け、ボランティアの協力を得、発掘調査を実施しています。5年度の本興寺境内の発掘調査では、溝が見つかり、この溝は、国庁の区画を示す区画溝との見解も出ています。今後の調査を期待します。

越前国府の調査は、国庁の他に、国分寺、国分尼寺の所在を明らかにすることも大切です。

土田のぶよしは、国分寺や国分尼寺の可能性がある「古代帆山寺」の発掘調査を促しました。



下野国庁 下野国庁跡資料館より



越前たけふ駅前への ホテル等誘致 未来創造基地

福井村田製作所の研究施設の着工に続き、ホテルや商業施設の誘致が期待されています。未来創造基地の整備に向け、6年度当初予算に調査費400万円が計上されました。



● おわりに

山田市長は、越前市行財政システム改革プラン2024「チャレンジ越前」を策定。市が「どんな事業をしたか」ではなく、「市民にどんなことをもたらせたか。」

この視点に立ち、改革を進めるとのこと。
「市役所」が、変わります。
市役所は、名実ともに、
「市民に役に立つ所」にです。
期待が持てます。

